



「友よ 我等は」

「学年通信」は、生徒の皆さんのが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

あらたしき年

2学年主任 古屋 彰士

あらたしき年が始まりました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。みなさんはどのような気持ちで元旦を迎えたでしょうか。今年一年がみなさんにとって吉き一年になることを願っています。

さて、あらたしき年を迎える、「3年0学期」だと「もう受験生だよ」だと、気持ちの切り替えを促されたり、勉強せよと煽られたりする言葉を耳にする機会が増えたのではないでしょうか。とても大切なことだと私は思いますが、それらの言葉に惑わされないこともまた大切なことだと思います。「受験生」と呼ばれたからといって何かスペシャルな能力が発揮されるようになるわけではありません。「何を大切にして生きていくのか」を自分なりに考え、人間として成長できたと実感できるような一年にしてほしいと思っています。

私は数年来、大伴家持の歌の拓本を床の間に飾ってあらたしき年を迎えていました。20年ほど前、たまたま神田の古書店で求めたものです。『万葉集』約4500首の最後に収められている歌です。

【本文】

三年春正月一日於因幡國廳賜饗國郡司等之宴歌一首（題詞）

新年乃始乃波都波流能家布敷流由伎能伊夜之家餘其騰

右一首、守大伴宿祢家持作之（左注）

【読み下し文】

三年の春正月一日に、因幡国の庁にして、饗を国郡の司等に賜へる宴の歌一首

新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事

（あらたしきとしのはじめのはつはるのけふふるゆきのいやしけよごと）

右の一首は、守大伴宿祢家持作れり

【歌意】

新しい年のはじめの新春の今日を降りしきる雪のようにいっそう重なれ吉き事よ



2月の主な行事予定

- 2月 6日（金） 教育相談、進研共通テスト模試（2年）
- 7日（土） 進研共通テスト模試（2年）
- 11日（水） 建国記念の日
- 12日（木） 第4回定期試験時間割発表、学習強化週間（18日まで）
第3回バイク免許取得希望者説明会（昼休み）
第2回PTA学年委員会・理事会
- 14日（土） 駿台記述模試（1・2年希望者）
- 19日（木） 第4回定期試験（1日目）
- 20日（金） 第4回定期試験（2日目）
- 24日（火） 第4回定期試験（3日目）
- 25日（水） 第4回定期試験（4日目）、大掃除・式場準備
- 26日（木） 生徒休業日
- 27日（金） 同窓会入会式・表彰式・別れの言葉・卒業式予行
- 3月 1日（日） 第47回卒業証書授与式・PTA3学年総会



【2学年通信リレー】

AIを使ってみた



4組副担任 仲嶋 恵

これまで5組や6組の副担任をしてきた私は、学年通信リレーの割当ては紙面の半分だった。今年は全面だ。何を書こうか頭を抱えている私に、某先生が「娘さんの結婚式の話はどうですか?」と言ってくれた。ちょうどその時、今年の共通テストをAIに解かせたら・・・なんて話題を耳にした。「そうか、AIがあるじゃないか!!」3年生の面接練習や小論文指導でもお世話になりそのありがたさは既に実感している。早速《長女。大学の同級生。県外に嫁ぐ結婚式・披露宴での母親の心情。》と入力したら次の文章①を提案してくれた。

① 姉弟のいちばん上として、いつも小さな背中にたくさんのお責任を背負わせてしまった娘。「お姉ちゃんなんだから」と何度も言つただろう。口にした後で、胸の奥がきゅっと痛むこともありました。でも、気づけば弟や妹の手を引き、静かに家の中を支えてくれていたのは、ほかでもないあなたでした。――― 中略 ――
県外に嫁ぐという現実は、何気ない会話や食卓を囲む時間が、もう簡単には叶わなくなること。そのひとつひとつが、改めて大切な宝物だったのだと気づきます。今日の日を迎えるまで育ってくれてありがとう。たくさんのお幸せを私にくれて、本当にありがとうございます。これからは、どうか自分の幸せを一番に。頼りすぎた分、今度はあなたが思い切り甘えられる、あたたかい家庭を築いてください。離れていても、いつでもあなたの味方です。そして、いつまでもあなたの母です。

これだけの情報でしっかりとそれっぽい文章になってることにびっくりした。でも、いかにもって感じで鳥肌が立つ。ズルをしようとしている立場でとは思うが、更にあれこれ要望を入力すること十数回。最終的に、教室で生徒に自分のことを雑談している風でと追加したら次の文章②が出来上がった。

② 「そうだ、ちょっと聞いてよ。実はこの前、うちの娘が結婚したんだよ。大学の同級生とね。で、県外にお嫁に行くことになつてさ。結婚式なんて、親としては何十年ぶりに“本気で泣きそうになるイベント”だったよ。いやあ、あれは来るね……。もうね、ドレス姿で出てきた瞬間に、“あ、こんなに大きくなつたんだ”って一気にいろんな場面が頭に流れ込んできてさ。
――― 中略 ――

県外に嫁ぐっていうのもあって、“ああ、本当に家を出るんだな”って実感した。でもさ、最後に花束渡されて、娘が“今までありがとうございました”なんて言うもんだから……もう泣くでしょ、それは。親としてのいろんな時間が報われた感じがしてさ。みんなもさ、いずれ家を出る日が来るよね。進学とか就職とか、結婚とか。そのとき、家に残る家族はきっとこういう気持ちなんだよ。嬉しいけど、寂しい。でもやっぱり嬉しい。だからさ、今“うるさいなー”って思ってる家の人の言葉もね、あと10年したら『なんかありがとうかったなあ』って思う時が来るよ。……とか言うと、ちょっと説教っぽいか(笑)。まあでも、そういうもんだから。家族って、離れてもずっと家族なんだよ。」

「なっ、なんだ? 今度は語り口調できたよ・・・」最初よりは自分のイメージに寄ってはきたけど、しっくりこないしツッコミどころ満載だ。人の気持ちをAIに表現させる難しいのか、私の指示が下手なのか、いろいろ言うなら最初から自分で書けよってことで納得した。

今の時代、結婚式と披露宴は主役の2人が全部準備。招待状はWeb。招待客も挨拶や乾杯も友人メインで堅苦しくない。新郎・新婦中座のエスコートは兄弟。最初渋っていた弟たちもいざその場になればノリノリで写真撮影にもニコニコ顔で応じ、姉の手を引いて中座をエスコート。AIが考えてくれたような気持ちになっている心のゆとりもないままバタバタと幕を閉じたというのが本当のところ。私の涙は、着つけ中に担当の方からかけられた言葉「黒留袖って結婚式だけなんです。新郎新婦の母親だけが着ることができるんですよ。着させてもらえることに感謝ですね。」からの新婦への紅差しすでに使い切ってしまった。天気に恵まれ、本物の神社での挙式や、横浜のおしゃれな会場でちょっとの感動とたくさんの疲労と無事に終わった安心感で満たされた一日だった。最近はお金がかかるからと挙式や披露宴を挙げない選択もある。「やらない後悔よりやった後悔」なんて言いながら挙げた娘たちには感謝している。でも結局AIが作ってくれた2つ目の文章の後半は表現こそ違えど私の気持ちと同じなんだなあ。

